

思いやりの心をはぐくむ交流活動

ながおか しりつなかしましやうがっこう
長岡市立中島小学校

中島小学校では、多様な人との交流体験を通して、相手を思いやり、共に活動しようとする温かい心を育成しています。

縦割り班活動

縦割り班活動の一つに、6年生が中心となって遊びを考え、班のメンバー全員で楽しむ「むつなみハッピータイム」があります。おにごっこや椅子取りゲームなど、いろいろな遊びを通して、異学年の子ども達との絆を深めています。

長岡聾学校との交流

隣接している長岡聾学校とは、学校を訪問し合い、交流活動を続けています。今年度、1、2年生は聾学校の2、3年生と交流会を行いました。聾学校の先生から「中」「島」「小学校」の手話を教えてもらい、手話を交えてお互いに自己紹介をしました。また、レクリエーションでは、「手話クイズ」

や「じゃんけんれっしゃ」を行い、聾学校の友達との交流を楽しみました。交流会の後には、「次はいつ会えるの?」「また一緒に遊びたい」などの声が聞かれました。今後交流を重ねることで、お互いへの理解を深め、よりよい関係を築いていってほしいと思います。



交流会でのじゃんけんれっしゃの様子

「思いやりの心」を育む町校班

ながおか しりつおもてまちしやうがっこう
長岡市立表町小学校

表町小学校では、「思いやりの心をもち、進んでよいことを実行する態度を育成する」ことを福祉教育の目標に掲げ、互いに支え、助け合い、尊敬し合う仲間づくりを大切にしています。この目標を具現するための柱となる活動が、「町校班（縦割り班）」活動による異年齢交流です。

4月、町校班の仲間たちとの顔合わせである「ようこそ1年生の会」が行われました。班のメンバーを紹介する「町校班ボード」作りでは、上学年の子どもが下学年の子どもたちに優しく声を掛け、ボードに載せたい町校班メンバーへの一言メッセージを書く様子が見られました。また、2年生以上の学年が1年生にプレゼントを作って手渡したり、会場の飾り付けをしたりしました。終了、温かい雰囲気の中で行われました。

5月には町校班遠足で、上学年の子ども

が下学年の子どもに交通安全を呼び掛けたりと、班の全員で楽しくウォークラリーをしたりする様子が見られました。

秋には、みゆき児童会のスポーツフェスティバルで町校班種目を計画しています。今後も町校班を生かした教育活動を通して、思いやりの心を育てていきます。



「ようこそ1年生の会」の様子

「地域の一員」として関わる地域交流

ながおか しりつなかしましやうがっこう
長岡市立神田小学校

神田小学校では、神田地区福祉会と連携して、地域の皆さんと関わりを深めながら、様々な教育活動を行っています。

栽培活動

全校で行う「花いっぱい活動」では、寿の皆さんと一緒に花を植えました。水やりや草取りにも協力してくれました。

2年生の野菜づくりでは、畑の先生としてサポートしてくれました。また、お世話になった地域の方を「野菜パーティー」に招待し、畑で育てた野菜とハーブを使っておもてなしをしました。地域の方と笑顔あふれる時間を過ごすことができました。

地域のお年寄りとの交流活動

3年生が総合的な学習の時間に地域のお年寄りの方と交流会を開きました。子どもたちが企画した「はないちもんめ」やゲームで楽しいひと時を過ごすことができました。

また、民生委員・児童委員の皆さんと一緒に、地域の方への「配食サービス」に参加しました。直接、お弁当を手渡し、地域の中で役に立っているという喜びを実感できました。

これからも、子どもたちが地域の方との交流を通して、自分も地域の一員であるという自覚をもてるよう取り組んでいきます。



交流会「はないちもんめ」の様子

温かな心を象徴する「花文字花壇」

ながおか しりつかりや たちやうがっこう
長岡市立刈谷田中学校

刈谷田中学校の校門に向かう坂道には「刈谷田中」という四文字の花文字花壇があります。この花壇は生徒会の整美委員会が中心になり、生徒・保護者・教職員が協働で運営してきた大切な学校のシンボルです。

学校では毎年、PTAと協力して「校舎の整備活動」を年2回実施しており、春の整備作業では、花文字花壇や生徒玄関前のプランターの花植え、グラウンドの草取り、側溝の泥上げを行っています。今年度も休日にもかかわらず、早朝から、生徒・保護者・教職員総勢200名ほどが作業をしました。その後、整美委員会が水やりや草取りをして花壇を管理し、毎朝美しい花文字が生徒と教職員を出迎えています。秋には、校舎の窓ガラス磨き、壁のペンキ塗り、教室の床のワックス掛けなどを行う予定です。毎年、この整備作業を通して、保護者と

の温かい交流が生まれ、生徒は協働することの大切さや助け合うことの素晴らしさを学んでいます。また、感謝の気持ちや校地校舎を大切にしていこうという意識が高まっています。

この温かな心の育みを象徴する花文字花壇をこれからも守り続けていきます。



花文字花壇の花植え

地域と共に

ながおか しりつよいたちやうがっこう
長岡市立与板中学校

学区を流れる旧黒川の河川やその周辺の清掃を、一般ボランティアの方やコミュニティ協議会の皆さんと協力して全校生徒で行いました。実施後の生徒作文を紹介します。

「今回の活動では、とても有意義な時間を過ごすことができました。生徒同士だけでなく、地域の方と一緒に地域貢献活動ができたからです。また、楽しみながら達成感を得られたことも良かったです」

「私は主に公園内の枝拾いをしました。小さな枝だけでなく、とても大きな枝もたくさん落ちていました。もしも小さな子供が枝を踏んだら、ケガをするかもしれません。だから、学級の仲間と協力して、沢山の枝を拾いました。地域の方たちと一緒にふるさとと板をきれいにすることができて良かったです」

「閉会式で『ゴミを拾うと、運が集まる』というお話を聞きました。地域のひと

活動すると、知り合いになれるし、地域もきれいになるし、良いことだと思いました。僕はゴミを拾うと、運だけでなく、笑顔と達成感が集まってくると思いました。この日の活動では、130Kgのゴミを集めることができました」

このように、生徒の作文から地域の一員としての自覚が育ってきたことがわかります。



高架下の清掃の様子

深くて広い思いやり

「思いやり」が大切であることはみんなが知っています。また、思いやる時に「相手の立場や気持ちになって考えることが大切」ということもよく言われています。

しかし、一人ひとり、それぞれ異なる立場の私たちにとって「自分以外の誰かの立場」を深く思いやることは難しいことです。「こうすることがきっと相手のためになる」「これは良い行いに違いない」といった「思い込み」や「思い違い」が含まれているかもしれません。そうした思いやりの「落とし穴」に落ちないようにするためにはどうしたらよいでしょう。日ごろから、自分とは立場や考えの異なる様々な人達と誠実に向き合い、それぞれの立場や考えを理解し共感する必要があるのではないのでしょうか。

人はみんな完全ではありません。様々な人から異なる立場や考えを学ぶことで、その人との人間関係を円満にするだけでなく、自分自身の成長にもつながっていきます。

